

| | |
|---|--|
| 1 学校教育目標 校是: 自立貢献 豊かな心を持ち、確かな学力を身に付け、変化の激しい時代をたくましく生きぬく児童生徒を育成する。 | 2 本年度の重点目標 (1) 児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな学級経営の実践 (2) 確かな学力の育成と進路保障 (3) 児童生徒の問題発見・解決能力を育成し、自分の意見を積極的に表現できる児童生徒の育成 (4) 島を愛し、島の文化を大切に育む心 (5) 業務内容の見直しを通じ、やりがいと魅力のある職場環境の創造 |
|---|--|

達成度
A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

3 目標・評価

①キャリア教育を充実しつつ、着実な学力の定着を図り、生徒の目指す進路を達成させる。

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 | 学校関係者 評価委員の 評価 | 意見や提言など |
|------|-----------|---------------------|--|---|-----|---|--|----------------------|---|
| 学校運営 | ○教職員の資質向上 | 授業研究の推進 校内OJTの推進 | ・全職員が「問題発見・解決能力を高める授業実践」に取り組み、年度末には、校内研究のまとめで発表する。 ・校内OJTを推進するとともに、外部からも積極的に講師を招聘し、多面的に職員の資質の向上を図る。 | ・グループを作って年2回の研究授業とその指導案検討を行う。他教科とも協働の授業研究会を実施し、優れた指導方法の共有を図る。 ・実務の中で、個々の持つ知識や技能を伝え合う。また教科指導以外の外部講師も招聘し、教職員として必要な多様な資質の向上を図る。 | B | ・小中それぞれのグループから1名ずつが研究授業及び研究会を行った。他教科・他校種の職員から様々な意見が出され、指導法改善への指針となった。 ・次年度から新しく導入されるプログラミング学習について外部講師を招き、実際の授業を行っていただく中で、指導の在り方や指導方法等について学ぶことができた。 | ・「問題発見・解決能力を高める」という校内研究のめあてに沿った外部講師を招聘し、児童生徒の力を更に高めるためのアプローチの仕方等について検討する。 ・年度末の「研究のまとめ」から課題を見つけ、改善していく。 | A | 小学校で、外部講師を招いたロボットプログラミング学習を行うなど、計画通りの取り組みがなされている。今後子ども達のために尽力してほしい。 |
| 教育活動 | ●志を高める教育 | 生徒のキャリア観の育成 | ・キャリア教育における汎用的能力である課題発見・解決能力及び表現力の向上に努め、自らの意思をしっかりと伝えられる児童生徒を育成する。 | ・スピーチタイムやスピーチ交流会をはじめ、全ての教科、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせたり発表をさせたりする時間や場面を設ける。 | A | スピーチタイムを通して小川島や小川小中学校の課題について考え、表現力の向上が見られた。 | スピーチ交流会においてもそれぞれの校種の取り組みを紹介したり、意見を交換することで表現力のさらなる育成を図る。 | A | スピーチなど、発言力がついてきている。学校や島の将来についての課題やその解決策を、子ども達が真剣に考え、発表することができている。 |
| 教育活動 | ●学力の向上 | 指導方法の改善 | ・思考力を高める授業の研究に取り組み、全国または県の学習状況調査で、B問題の正答率をH30年度より10%向上させる。 | ・職員研修で学力調査及び学習状況調査についての分析及び生徒個人の得点状況の傾向と対策を考える。 ・小中各部会で学力向上アクションプランの効果的活用のための検討や個人用のアクションプランの評価をおこなう。 | B | 職員研修で学力調査等の分析を行った。4月調査では昨年度と比較して大きく上昇した教科があった。12月調査では小学校はすべての教科において県平均を上回った。中学校は県平均程度であった。 | 思考力の向上についての実践をさらに重ね、本年度の成果と課題をまとめることで来年度の実践につなげる。 | A | 子ども達は、落ち着いた態度で授業を行っている。学力調査の結果などを参考に、これからは学力向上に取り組んでほしい。 |

②人権教育を充実させ、特別支援教育に対する意識も高める。

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 | 学校関係者 評価委員の 評価 | 意見や提言など |
|------|-------------|----------------------------|--|--|-----|---|--|----------------------|---|
| 教育活動 | ●心の教育 | 人権教育と情報モラル教育の充実 道徳教育の充実 | ①児童生徒の全員が「あいさつや礼儀・思いやりの心が高まった」と感じてもらう。 ②地域との交流は継続的にを行い、島外でのボランティア活動や奉仕活動に参加する。 | ①全学級で道徳の公開授業を行う。また、互いに授業を参観し合い指導力の向上に努めるとともに、教科化に伴って教科書をうまく活用しながら指導法の工夫に努める。 ②地域の方との交流や奉仕活動を継続的に行いつつ、島外への取り組みにも目を向け、奉仕活動を通して、島外の方との交流も行う。 | A | 中学校では、全ての道徳の時間を合同で行い、教師どうしの意思疎通を図ることによって、授業を効率よく進めるとともに、異学年の交流によって生徒の考えも深めることができた。行事や総合的な学習、時事ニュースとも関連させて題材を選び、繰り返し考えさせることによって、より広い視野を持たせ、より深い思考に導くことができた。地域との合同行事の際に、生徒の呼びかけポスターや司会進行、また、清掃やおにぎりアクションプロジェクト参加などを通して、地域の内外に貢献することの大切さを学ばせることができた。 小学校では、テレビ会議システムを使ったり、実際に訪問したりして、他校の児童と合同で道徳の授業を行った。それにより、多様な考えに触れることができ、自己の考えを深めることもできた。 | 教科との関連づけをさらに追及し、道徳的な感性を磨く場を多く設ける。少人数でも貢献度の高い活動を考え工夫する。 | A | 子どもの数が減り、普段は顔を合わせる機会が少なくなったが、会った時にはきちんと挨拶してくれる。体育大会やグランドゴルフ大会、餅つき、総合的な学習の時間での発表会等で交流ができた。 |
| 教育活動 | ●いじめの問題への対応 | いじめをつくらない、許さない風土づくりの推進 | ①支持的風土作りを重視し、グループエンカウンターやSSTなど、人との関わりを学ぶ機会を全職員が取り入れる。 ②いじめられたことがある、いじめているところを見聞きしたことがある児童生徒の割合を0%にする。 | ①道徳の授業や生徒指導朝会の中で、グループエンカウンターやSSTを取り入れる。 ②いじめアンケートを年に2～3回実施したり、教育相談を活用したりして、児童生徒が気軽に相談できる環境をつくる。 | A | ①SCの先生との連携を図りながら、人との関わりを考えるような取り組みを機会をとらえて行った。 ②教育相談期間中はもちろん、いろんな場面で、すべての先生が寄り添い、声かけを行っている。 | ・取り組んでいる内容を、可能な限り保護者に伝えるように発信していく。 | A | いじめているところを見たことはない、そういう話も聞かない。子ども達をよくみて、指導してもらっている。今後も、いじめのない学校づくりを続けてほしい。 |
| 学校運営 | ○特別支援教育の充実 | 教員の専門性と意識の向上 | ①生徒指導協議会を行い、すべての児童生徒についての共通理解を図る。 ②研修に派遣し、その内容を教員へ伝達指導、研修を行い意識を高める。 | ①学期に1回の生徒指導協議会、毎週の連絡会を通して、児童生徒に関する情報を共有する。 ②教育相談週間を作り、児童生徒との交流の時間を十分に確保する。 ③資料を活用し、内容の共通理解を図る。 | B | ①生徒の様子を会議以外でも日頃の会話の中で情報共有を行った。 ②教育相談週間にみならず、休み時間や給食時間を利用した交流もできた。また、SCの先生より、生徒一人一人の面談や必要な支援のアドバイスももらった。 | 各教科の先生方と話し合い、支援を必要とする児童生徒の支援計画を共有する。 | A | 転入生も、すぐに島の生活や学校に慣れ、毎日登校できていることは、教師の指導のおかげだと思う。 |

③業務改善を図るとともに、情報発信、地域との連携に努め、開かれた学校づくりを推進する。

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 | 学校関係者 評価委員の 評価 | 意見や提言など |
|------|--------------------|----------------------------------|--|---|-----|---|--|----------------------|---|
| 学校運営 | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | 校務等の効率化の促進 | ・各分掌間、小中間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進する。 ・業務記録簿による教職員の勤務時間を確実に把握し、教職員の時間外勤務について全職員が1か月あたりの時間外勤務が50時間以下となることを実現する。 | ・校務サーバーを整理するとともに、文書收受において、電子收受の割合を増やす。 ・各教職員の勤務時間を確実に把握するとともに、特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントを継続する。 | B | ・成果として、効果的な業務の推進のため、職員会議のペーパーレス化を行った。それにより、大幅な紙の節約と会議の短縮化につながった。課題は、時間外勤務月当たり50時間以内全員達成できなかった。 | ・毎日の業務記録簿への記入は全職員できているので、継続させる。時間外勤務が多いのは、小学校の職員なので、さらに、小学校職員の業務負担を減らし、中学校の職員でできる分はカバーをしていく。 | B | 島外の学校は、残って仕事をしているところがあるが、小川小中学校はどうかと質問があった。職員が少数のため、1人の役割が多く、特に小学校の教務主任と学級担任の業務の忙しさを伝えた。 |
| 学校運営 | ○地域・保護者との連携 | 地域のよさを学ぶ授業や地域との交流活動を計画し、郷土愛を育てる。 | ・ガゼとり、漁業体験の授業を継続する。 ・鯨骨切り唄子ども保存会の方を講師とした鯨骨切り唄の授業を継続し、文化の継承を図る。 ・郷の家訪問による高齢者との交流、グランドゴルフもちつき大会の老人会との交流を続ける。 ・生活科や総合的な学習の時間を使い、小川島の歴史や文化を学ぶ授業を計画する。 | ・ガゼとり、漁業体験、鯨骨切り唄の授業、グランドゴルフ大会、もちつき大会の行事については、年間計画に入れるとともに担当者を明確にしておく。 ・郷の家訪問については、総合的な学習担当者を中心に、アイランドフェスティバルのあとに計画する。 ・その他の交流や歴史・文化・地域を知る学習については、各担任が、学年の状況に合わせて計画する。 | A | ・各項目とも予定通り実施できた。 ・来年度は、中学生が2人となるため、より小中連携を深めるとともに、各行事のやり方考える必要がある。 ・歴史・文化・地域を知る学習は、学年ごとの目標を決めて計画的に実施する。 | ・鯨骨切り唄保存会については、来年度、小学生を中心に太鼓や歌も練習するようにしていく。 ・アイランドフェスティバルの内容について検討する。 ・小学校は、教科書の変更に伴い教育課程を見直すので、その時に生活科・総合的な学習の時間についても計画を確認する。 | A | 授業参観や発表会等へ、保護者は出席しているかという質問があった。ほぼ100%の出席率で、アイランドフェスティバル(文化発表会)等の学校行事には、地域の子どもも多数参加していただき、子ども達にもよく声をかけていただいていることを伝えた。 |
| 学校運営 | ○情報発信 | 各種通信やSNSを生かした情報発信の充実 | ・ホームページの更新を定期的に行う。 ・SNSを活用して、ホームページの案内を行い、閲覧数を増やす。 ・学級通信を毎週発行し、学校での様子や、担任の思いを保護者へ伝えていく。 | ・毎月末にホームページを更新し、次月の行事等が分かるようにする。 ・毎週発行の学級通信を継続して取り組んでいく。 | B | ・課題としては、ホームページの更新ができなかった。成果としては、各担任が毎週アイデアを凝らした学級だよりを発行し、担任の思いを伝えることができた。 | ・来年度より、新しいホームページが県下一斉に開設されるのに合わせて、担当者が作成のノウハウを研修したので、新しい画面でタイムリーな情報発信を進めていきたい。 | B | ホームページは、見ない人もいるので、学校からの連絡やお知らせなどは、島内放送や掲示板、回覧板などを利用してほしい。 |

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策 | 学校関係者 評価委員の 評価 | 意見や提言など |
|------|------------------------|---|--|---|-----|---|---|----------------------|---|
| 教育活動 | ○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施 | ①効果的なICT活用教育の推進 ②テレビ会議システムを活用した交流の推進 | ①授業中に、児童生徒がICT機器を活用することで、試行錯誤したり、多様な考えに触れたりできるようにする。 ②前年度より、テレビ会議システムを活用する場面を増やす。 | ①児童生徒が、授業中に電子黒板やタブレットPCを操作する機会を増やす。また、テレビ会議システムやコラボノートを活用し、他校との交流を促進する。 ②他校と連携し、スピーチタイムに加え、授業や休み時間などにおける交流を促進する。 | B | ①電子黒板のペン機能を活用し、デジタル教科書に自分の考えを書くことで、使用に慣れた。書いたことを消すことが簡単であるため、試行錯誤をたくさんすることができた。 ②交流授業の機会を増やし、しっかりと自分の考えを発表することができた。 | IOT機器の活用を目的を明確にし、利用を推進していく。具体的には、テレビ会議システムやコラボノートを、多様な意見に触れる機会を増やすために活用する。また、電子黒板の使用によって、効果的に説明する力を高めていく。 | A | テレビ会議システムを活用した高島との合同授業を参観したが、自分たちの時代には想像もつかなかった。子ども達の発言力が付いているのは、この取り組みの成果だ。少ない人数での授業だと感じないでいい。 |
| 教育活動 | ●健康・体づくり | 基本的な生活習慣の形成 運動習慣の定着化 | ①自分に適した生活リズム(睡眠を含む)を知り、快適な生活を送ることができるような習慣を実行する。 ②社会体育、部活動以外でも体力づくりのために、遊びや休日を利用して運動などを取り入れる。 | ①睡眠の大切さを知らせ、その「質」「量」「リズム」を年間を通して身につけさせる。 ②快適な排便の重要性を知らせ、基本的な生活習慣に含まれており、自らの健康を排便によって判断できるようにする。 ③体力テストの結果から、より運動能力を高めるための方法を遊びなどに取り入れる。 | B | 生活のリズムに関しては、朝会の中で話してきた。ただ、排便についての内容を含まなかった。健康的な生活習慣は、中学生では教科を含め理解し、ほぼ身に付いている。小学生にも理解できるように資料を準備するのが、課題。 ①睡眠の「量」が短いように感じられた。 ②人数減のため、休み時間に体を動かさず遊びをすることが減った。 | 指導のみでなく、家庭の協力を得ながら成果が出るよう計画をすべくだと思ふ。 ①児童生徒の実態をできるだけ正確に把握するため、保護者の方へのアンケートを実施し、改善策をさらに考える。 ②駅伝大会とマラソンタイムといった学校行事と連携した取り組みをさらに促進していく。 | A | 小学生は、公園で遊ぶ姿が見られたが、寒くなると減ってきている。 中学生は、釣りを遊ぶ姿をよく見かける。 部活動は、現在どのようなようになっているか、質問があった。剣道部のみの活動であることを伝えた。 |

4 本年度のまとめ・次年度の取組
・項目別三者比較より、『学校教育目標の周知について』保護者の達成率が71%と低い。保護者は育友会関係の行事や授業参観等への出席率は高く、学校への関心も高い。学校教育目標の周知のために情報発信を工夫していく必要がある。また、『家庭学習の充実』『学校・部活・社会体育以外での運動の実践』についても、教師は指導を行っているものの、児童生徒・保護者ともに達成率が低い。どちらも、できていない一部の児童生徒のためであるが、家庭と連携して『家庭での学習・運動』への意欲が高まる指導の取り組みが更に必要である。
・項目別経年比較より、『一人一人を大切に学級経営』『挨拶や礼儀』『学力・表現力の育成』『島を愛する心・学校行事や体験活動への参加』など、児童生徒の学習・学校生活に関することについては、全ての項目の平均点で高い水準を示している。この水準を維持できるよう、進化・改善した計画的・組織的な取り組みを実践していく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目